

あきた国際フェスティバル2023」が開催されました

主催：(公財)秋田県国際交流協会 後援：(一社)秋田県貿易促進協会

10月1日、あきた拠点センター「アルヴェ」において、33回目となる「あきた国際フェスティバル2023」が開催され、幅広い国・地域・年齢層の県民1,314人が参加しました。

在住外国人による母国文化の紹介や国際交流団体による活動紹介などが行われるワールドブースでは、各ブースを回りクイズに答えるスタンプラリーが実施され、多くの来場者が18の国・地域、35団体の出展者と楽しく触れ合いました。

また、ステージでは、アフリカやコロンビアのダンス、タイやネパール、インドネシアの伝統舞踊、スコットランドのバグパイプなど、県内在住外国人による多彩なパフォーマンスが披露され、参加者も手拍子したり一緒に踊ったりなどして異文化体験を楽しみました。

在住外国人にとっては、母国の伝統文化を県民に伝える活躍の機会となっただけでなく、秋田県内に暮らす外国人同士つながり、交流を深める場にもなっており、会場のあちらこちらで写真撮影や連絡先の交換を行う姿が見られました。

来場者・在住外国人の双方から早くも来年の開催を待ちわびる声がたくさん聞かれました。



趣向を凝らした展示とクイズによる交流



アフリカのダイナミックでシアトリカルなダンス



県民と多様なルーツの在住者が入り混じったフィナーレ



コロンビアの情熱的なパチャタ



観客も自然と笑顔になるネパールの民族踊り

専門アドバイザーコラム

ネザムトチノフ・ヴィクトル ロシア・ウラジオストク在住 極東連邦大学講師

この間、ネットの現地のニュースに目を通してみました。興味を引きつけた情報があまりない中、一枚のきれいな船の写真ズームして「おやっ」と思いました。旅行会社の宣伝だと知り驚きました。旅客船に乗って日本に行けるとのこと。ウラジオストク港と石川県七尾港とのアクセスなのです。客船の名は「プレイオナ」号と言います。

さっそく旅行会社「ポストークツアー」と連絡してみました。10月23日には初便が七尾港に無事到着したそうです。今後も定期便として運航できるかは不透明のようですが、とにかく、そのニュースはわたしを幸せにしました。新型コロナウイルスの時期から日本への直行便がなくなり、今でも遠回りをしなければいけません。旧ソ連時代のナホトカ港と横浜港の快適な船旅を思い出しました。

以前とくらべて状況は変わってしまっていますが、以前と同じように日本に興味・関心を持っている人々はたくさんいます。大学で日本語を習う学生も多いし、一般市民の日本語クラスも人気があり、日本語検定も定期的に行われます。

また、流通が停滞していても、日本産の製品は販売されています。特に多いのは、化粧品やサプリメント、洗剤などです。もちろん、さまざまなお客様のニーズにお応えするため、もっと多彩なラインナップが用意されるようになればいいと思います。

そのためにも、アクセスが一番大事なことでしょう。これからどう進んでいくか心配でもあり、希望もあります。



七尾港への旅客線ツアーの案内(日本語訳)



Newsletter

第66号

2023年10月発行

アメリカ・サンフランシスコ日本酒プロモーション① SAKEDAY2023への参加、日本酒輸入業者との商談

令和5年9月28日から10月2日にかけて、アメリカ・サンフランシスコの日本酒イベント「SAKE DAY 2023」の開催にあわせて、現地で秋田県産日本酒のプロモーションを実施しました。

SAKEDAYは、アメリカでもっとも歴史のある日本酒専門店「TRUE SAKE」が2005年から毎年10月1日の「日本酒の日」に開催している消費者向けの日本酒試飲イベントです。今年も10月1日が日曜日であったため、9月30日に開催されました。当協会の本イベントへの参加は昨年に続き2回目となります。今回は酒造会社、日本酒輸入業者・販売事業者など61社が出展。100ドル(約15,000円)のチケットは開催の2ヵ月前には売り切れ、キャンセル待ちの状態となる人気のイベントです。当日も会場のホテルを取り囲むように入場を待つ長蛇の列が出来ており、入場まで1時間近く待ったという来場者もいました。

SAKEDAYは一般客向けの日本酒試飲イベントですが、出展者として全米の有力な日本酒輸入業者や販売店、また、来場者としても日本酒の流通

業者や販売店、有名レストランのオーナーやシェフなどが一堂に会するイベントでもあり、アメリカ、とくにカリフォルニアへの進出のためのキーマンと知り合う機会創出の場にもなっています。

同イベントの出展企業の中から、とくに秋田県の日本酒に関心を持っている現地輸入業者と事前に商談のアポイントを取り、アメリカ未進出の県内酒造会社3社から12種類の日本酒を提案しました。

提案した商品の中では純米吟醸クラスで、口当たりが柔らかで飲みやすい日本酒が好まれましたが、味はもちろんのこと、他の商品とは違うユニークな特徴があることが、取引を決定するうえで重要視しているとのことでした。またお客さんが手に取ってくれそうなラベルや外箱などのデザインだと、仕入れる側としても小売店などに提案しやすいとのことでした。

本事業のフォローアップとして11月上旬、商談をした輸入業者に秋田に来ていただき、実際に酒蔵を訪問

して、視察や商談を行う予定です。県内酒造会社には海外展開に関心があっても、どのようなところから始めたらいいかわからないといったところもあり、協会としては、専門家の意見も聞きながら個別にサポートし、輸出の拡大に繋がるよう努めます。



日本酒輸入業者との商談



小玉醸造出展ブース



SAKEDAY会場の様子



SAKEDAY2023ロゴマーク

秋田の貿易ビジネスをサポートします
ATPA 一般社団法人 秋田県貿易促進協会
電話 018(896)7366 FAX 018(896)7367 Email info@a-trade.or.jp ホームページ http://a-trade.or.jp/

〒010-0951 秋田県秋田市山王2丁目1-40 田口ビル1階

アメリカ・サンフランシスコ日本酒プロモーション② 試飲会の開催、日本酒現地市場調査



JSNCとのコラボレーションによる試飲会の開催

アメリカ・サンフランシスコの日本酒イベント「SAKE DAY 2023」の開催にあわせて、ジャパンソサエティ(Japan Society of Northern California/JSNC)とのコラボレーションにより、秋田県の日本酒試飲イベント「Akita Sake Special Tasting Event」を開催しました。

シリコンバレーに所在するJSNCは、1905年(明治38年)に設立された米国の民間非営利団体(NPO)です。日米間の相互理解を深めるために、政治、経済、文化、教育、日本語レッスンなど広範囲に渡るプログラムを展開しています。

試飲イベントにはSAKE DAYに出展する小玉醸造の「純米大吟醸 天功」をはじめ、秋田県から5種類の日本酒を提供しました。告知の期間が短かったにも関わらず、イベントは好評で、日本酒の輸入業者をはじめ、在サンフランシスコ日本国総領事館(以下、総領事館)、JETROサンフランシスコ、銀行・金融、システムエンジニアやマスコミ関係者のほか、日本語レッスンの生徒など幅広い業界から約30名が参加しました。

日本酒の試飲とともに、秋田県の環境や日本酒の特徴などについて説明し、秋田県の日本酒について関心を持っていただきました。

滞在中には総領事館へ表敬訪問し、領事の堀米大樹氏よりサンフランシ

スコの日本酒市場についての情報をお聞きしました。

サンフランシスコは世界のテクノロジーの中心と言われるシリコンバレーがあることから、アメリカの都市圏の中でも所得がもっとも高い都市の一つとなっています。

新型コロナ禍以降、飲食店や小売店の数は減少傾向にありますが、今もサンフランシスコは、ロサンゼルスを含めた周辺都市への流行に関する情報発信の拠点となっています。

また、カリフォルニア州は、ナパバレーに代表されるカリフォルニアワインに加え、ビール醸造所数も国内最多など、アメリカのアルコール市場をリードしています。アメリカで生産している日本酒(SAKE)についても30年以上も前にTAKARA、Gekkeikan USAなどの大手メーカーが展開して来たことから、現地でSAKE造りに向いたお米が生産されており、SAKEの醸造所を作るのに適した条件が整っています。一方でサンフランシスコの地価は全米でもトップクラスで、建物の賃借料も非常に高額になるため、小規模なSAKE醸造所が増えてきています。現在、カリフォルニア州にはSAKE醸造所として、サンフランシスコのセコイア・サケ・カンパニー(Sequoia Sake Company)、サンフランシスコの隣のオークランドのデン・サケ・ブリュアリー(Den



サンフランシスコの日本酒専門店

n Sake Brewery) があります。Den Sakeはコンテナの中で醸造をしています。ほかにもアメリカ産の山田錦を日本で醸造した日本酒なども輸入されています。

様々なユニークな日本酒やSAKEが増えており、アメリカにおける日本酒への関心が高まっているのを感じました。



カリフォルニア・オークランドのDen Sake

国土交通省・総務省に対する県内主要3港の整備促進要望

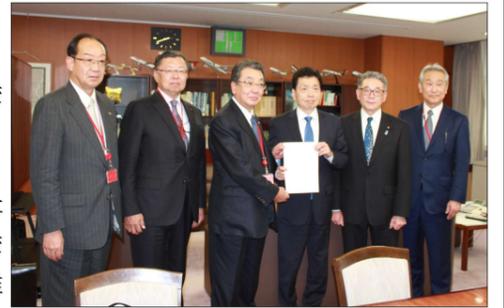
10月27日、当協会は、秋田商工会議所 辻良之会頭、秋田港・船川港・能代港の各港湾振興会代表者とともに、国土交通省及び総務省を訪問し、県内重要港湾の整備促進に向け、木嶋智国土交通審議官、稲田雅裕港湾局長、湯本博信総務省大臣官房審議官、今川拓郎総合通信基盤局長等との面談と港湾局との勉強会を行いました。

各港湾共通事項として、「港湾関連予算の確保」、「洋上風力発電事業拠点化に向けた港湾の整備促進」、「脱酸素社会の実現に向けた港湾脱炭素化推進計画策定への支援」、「クルーズ船の運航に係る取組の推進」について要望し、秋田港は「港湾の生産性向上等に資する自動運転の実用化およびAIやIoT技術の導入推進」、船川港は「発災時のリダンダンシー確保に向けた耐震化岸壁の整備及び埠頭用地増設への支援」、能代港は「大森地区泊地予防保全事業の促進」等について、それぞれ個別に要望しました。

水嶋国土交通審議官は、「まずは港湾関係予算の総枠を確保し、各港湾に配分して行くが、地元の熱意は重要な要素だと考えている」と述べました。

また、同月31日、国土交通省東北地方整備局、総務省東北総合通信局の幹部職員と同様の面談を行いました。

これらの面談は、当初、8月に要望書の手交とともに行う予定でしたが、7月の県内の大雨被害により中止となり、要望書の提出のみとなっていたため、今回、改めて要望内容の説明を行ったものです。



水嶋国土交通審議官への要望書手交



国土交通省港湾局との勉強会①



国土交通省港湾局との勉強会②



湯本総務大臣官房総括審議官への説明

シンガポールお米の輸入業者

誠屋(新)私人有限公司来県

10月4日から6日にかけて、シンガポールで秋田から玄米の輸入および現地精米している誠屋(新)私人有限公司(誠屋シンガポール)のトミー・ング社長が来県したため、県内訪問に同行しました。

誠屋シンガポールには、横手市の秋田屋株式会社が、樽見内営農組合などが生産した秋田県産米や県外から買い付けしたお米を輸出しています。コロナ禍の間も輸出量は増加し、令和4年度は秋田県産ゆめおぼこやあきたこまちをはじめとした玄米約282トンの輸出実績がありました。

当協会と誠屋シンガポール・トミー社長とは、平成20年度に実施した伊勢丹シンガポールフェア以降交流があり、シンガポールでの輸出促進事業の際にもお世話になっています。同社は秋田県からお米以外にも日本酒などの県産品も輸入しています。

秋田県滞在中は稲刈り作業の視察や体験、東北農政局秋田拠点や県農林部販売戦略室への表敬訪問、酒蔵見学などを行いました。稲刈りの視察では、誠屋シンガポールの精米工場の担当者ポールさんが実際にコンバインに乗車して、あきたこまちの収穫を体験しました。



東北農政局秋田拠点を訪問



あきたこまち稲刈り作業の視察や体験